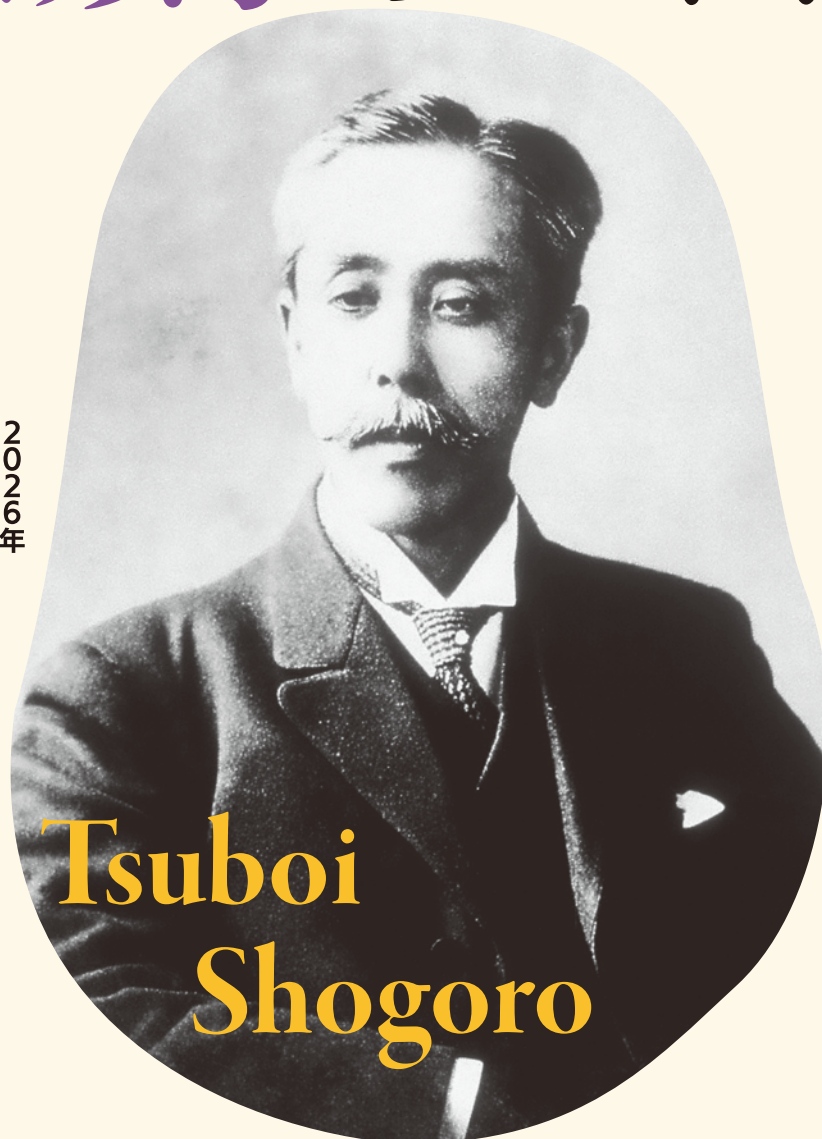


日本人類学のパイオニア



坪井 正五郎

Tsuboi
Shogoro

2026年

10月17日〔土〕▼11月23日〔月・祝〕

〔会場〕 徳島県立博物館 企画展示室

〔開館時間〕 9時30分～17時

〔休館日〕 月曜日（11月23日〔月・祝日〕は開館）

〔観覧料〕

一般200円、高校・大学生100円、小・中学生50円

土・日曜日・祝日は高校生以下無料／高齢者（65歳以上）は半額（証明書の提示が必要）
学校教育、社会福祉施設等での利用は無料／20名以上の団体は2割引
身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳、特定医療費（指定難病）受給者証、小児慢性特定疾病医療費受給者証の所持者とその介助者1名は無料

〔主催〕

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館、徳島県立博物館



Torii
Ryuzo

日本人類学のパイオニア 坪井正五郎

令和8年度企画展

徳島出身の人類学者 鳥居龍蔵^{とり いりゅう ぞう} (1870-1953) は傑出した研究者でしたが、その才能を見出し育てたのは、恩師 坪井正五郎^{つばい しょうご ろう} (1863-1913) でした。

坪井は、1884(明治17)年、大学生でありながら、仲間とともに人類学会(現在の日本人類学会)を設立し、1893年には東京帝国大学人類学講座の初代教授に就任するなど、人類学の確立・発展に努めたため、日本人類学のパイオニアといえます。坪井は、各地で遺跡や習俗などの調査・研究を行ったほか、市民向けの講演にも精力的に取り組みました。一方、坪井のもとには、多種多様な経歴を持つ人々が集い、鳥居のほか大野延太郎^{おお の のぶ た ろう} (1863-1938) ら後進が育っていきました。

この企画展では、坪井による人類学研究の様相を紹介するとともに、坪井の下で学んだ鳥居と大野の業績を紹介することで、日本人類学の黎明^{れいめい}を顧みたいと思います。



<上から>東京人類学会草創期のメンバー(1893年撮影、『ドルメン』第4巻第9号より)
(当館蔵)／坪井正五郎『人類学講義』(1908)(当館蔵)／坪井正五郎『うしのよだれ』
(1909)(当館蔵)

展示構成

- プロローグ 坪井正五郎と鳥居龍蔵の出会い
第1章 坪井正五郎、日本で人類学を始める
第2章 坪井正五郎、人類学の確立に努める
第3章 坪井正五郎、人材を育てる
—鳥居龍蔵と大野延太郎—
第4章 坪井正五郎、市民に人類学を広める
エピローグ 坪井正五郎がのこしたもの



関連行事

記念講演会(第1回)

「坪井正五郎の人類学研究 —人種論を中心に—」

講師／平田健氏(東京都教育委員会 学芸員)

日時／10月25日[日] 13:30～15:00 ※受付 13:00～

会場／文化の森 イベントホール

定員／100名 ※申込不要(先着順)、参加無料

展示解説

①10月18日[日]

②11月3日[火・祝]

③11月22日[日]

いずれも13:30～14:30

※申込不要、観覧料が必要

記念講演会(第2回)

「日本人類学における画工・大野延太郎(雲外)の役割

—坪井正五郎や鳥居龍蔵との交流を背景として—」

講師／藏田愛子氏(大阪大学大学院人文学研究科 助教)

日時／11月15日[日] 13:30～15:00 ※受付 13:00～

会場／文化の森 イベントホール

定員／100名 ※申込不要(先着順)、参加無料



大野延太郎筆「埼玉県秩父地方調査時のスケッチ」(当館蔵)

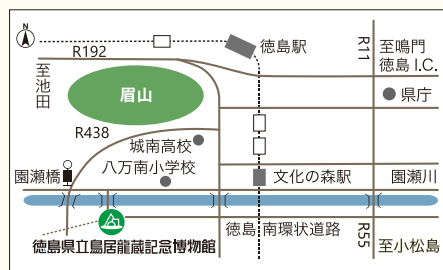
文化の森総合公園

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

TEL 088-668-2544 FAX 088-668-7197

<https://torii-museum.bunmori.tokushima.jp>



徳島駅から

バス…約25分

タクシー…約15分

文化の森駅から

徒歩…約35分

徳島自動車道「徳島津田I.C.」から

車…約15分

※無料駐車場あり



世界人類民俗人形
(東京大学総合研究博物館蔵)